

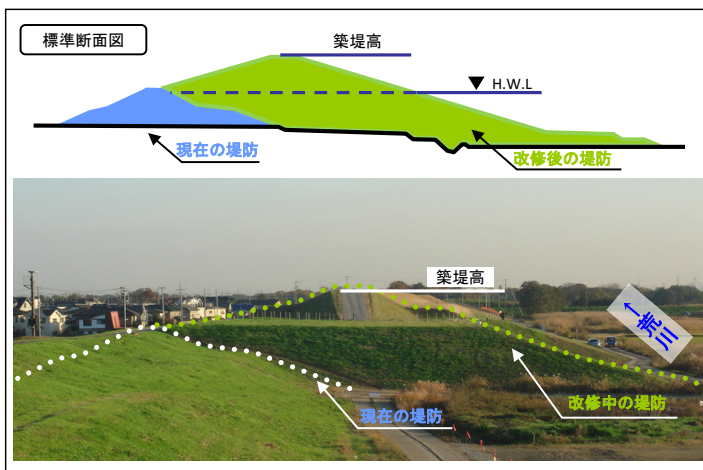
# さいたま築堤

～さいたま地区の暮らしを守る荒川的一大プロジェクト～

堤防の高さと幅を大きくし、治水安全度の向上を目指していきます。



さいたま築堤の実施位置図



堤防整備イメージ図

## 堤防整備の必要性

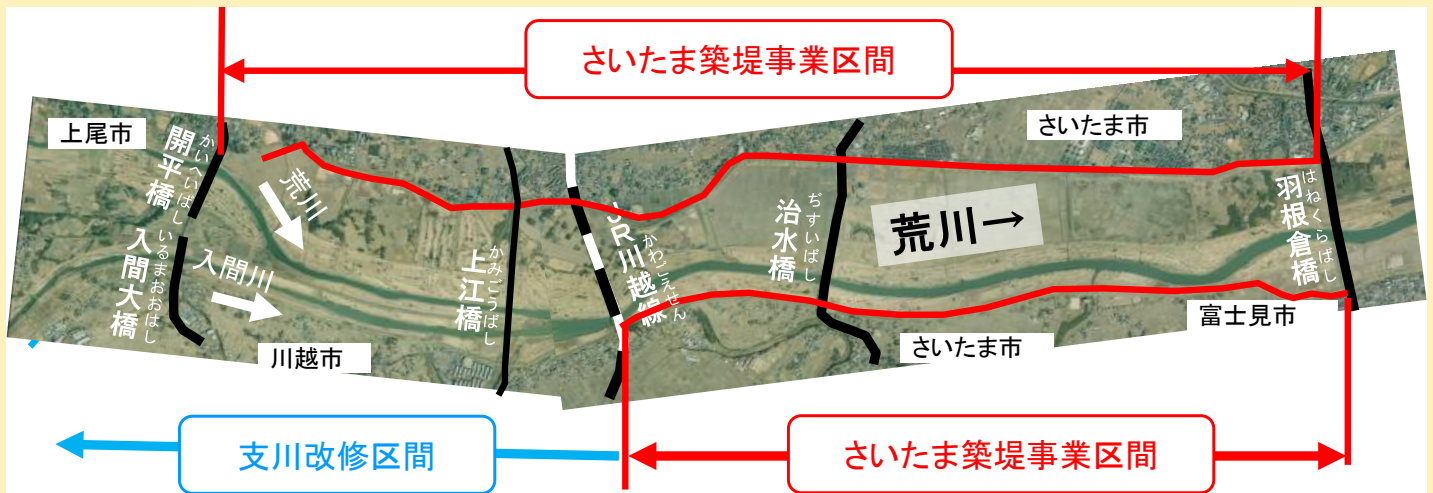
荒川が流れる首都圏は、戦後の経済成長に伴い、政治、経済等の諸機能が極めて高度に集積するとともに、人口や建物が密集し、地下空間も大規模かつ複雑に利用されているため、カスリーン台風規模の洪水が発生した場合、堤防が決壊し、戦後のカスリーン台風時の被害をはるかに上回る甚大な人的、物的被害が発生するとともに、自然排水が困難なゼロメートル地帯では、被害の規模はもちろんのこと、浸水の長期化が懸念され、被災した地域の復旧・復興には多大の費用と時間を要することが想定されています。

そのため、堤防整備は、特に氾濫した場合の被害が広域に及び恐れがある区間や、浸透に対して安全度の低い区間等から進めており、現在は「さいたま築堤」に重点的に取り組んでいます。堤防整備は下流側より行われ、羽根倉橋付近より下流はおおむね完成しており、引き続き羽根倉橋より上流の堤防整備も行っていきます。

## ▶ さいたま築堤

「さいたま築堤」は、洪水に対する安全性を向上させるために、さいたま市、上尾市、川越市で実施する河川工事です。

さいたま築堤区間は、下流部および支川入間川に比べ堤防断面が不足しており、現況流下能力は計画高水流量の2/3以下となっているため、開平橋から羽根倉橋の間の築堤を行い、流下能力を向上させます。

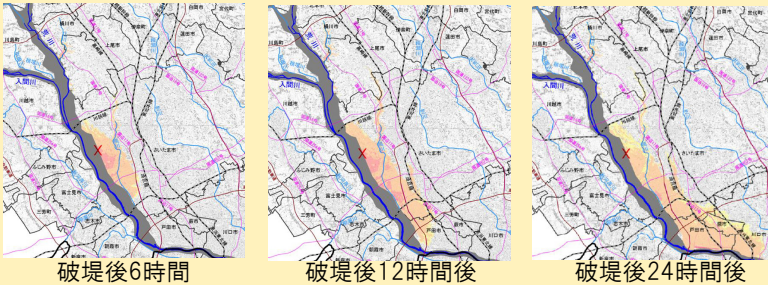


さいたま築堤の事業区間

## ▶ さいたま築堤事業区間で氾濫が起きると

右の図は、さいたま築堤事業区間に含まれる荒川左岸40.8kで破堤した場合の洪水氾濫シミュレーション図（想定最大）です。これは破堤から48時間経過した時点での洪水域を示したもので、さいたま市での出水により、戸田市と蕨市の全域、川口市の南部にまで洪水被害が及ぶと想定されています。

【洪水氾濫シミュレーション図(想定最大)荒川左岸40.8kが破堤した場合】



破堤後48時間

## コラム 西遊馬地区河川防災ステーション

荒川上流河川事務所では、堤防の整備とあわせて、西遊馬地区河川防災ステーションの整備も実施しています。

西遊馬地区河川防災ステーションは、洪水被害を最小限に食い止めるため災害時の緊急復旧活動を行う上で必要な緊急用資材を備蓄すると共に、駐車場や緊急時用ヘリポートのほか、さいたま市が設置する水防センター等を配置し、迅速かつ円滑な復旧活動の拠点として整備するものです。

また、平常時には地域の交流・憩いの場としての活用が可能となります。



西遊馬地区河川防災ステーション完成予想図（洪水時）

